

令和6年度 発生予察注意報 第3号の発表について

越冬世代成虫が多いことから、その子世代である第一世代幼虫が多く被害が予想されたため、6月13日に発生予察注意報第2号（オオタバコガ）を発表しました。

今回、第一世代成虫が多いことから、その子世代である第二世代幼虫による被害が大きくなることが予想されるため発生予察注意報を発表します。

1 発表の根拠

- (1) 群馬県が県内に設置している6地点のフェロモントラップにおける成虫の誘殺数が平年に比べて多く推移しています（図1～6）。このことから成虫が産卵する卵の数も多く、すでに農作物に被害を与える幼虫が多く発生していると考えられます。
- (2) 露地ナス、雨よけトマト、レタス等で幼虫による食害が確認されており、露地ナスでの食害は平年に比べてやや多くなっています。
- (3) 向こう1か月の気象予報（気象庁7月11日発表）によると、平均気温は高い確率70%であり、オオタバコガの発生量が多くなる気象が予報されています。

2 発表の内容

- (1) 発表日 令和6年7月12日
- (2) 作物名 野菜・花き類
- (3) 病害虫名 オオタバコガ
- (4) 発生地域 栽培地域全域
- (5) 発生量 多い

3 その他

- (1) 生産者に対しては、幼虫が果実や花蕾、結球の内部に食入する前に農薬による適期防除を行うことや、被害果及び被害株をほ場外へ持ち出して適切に処分することなどの防除対策を呼びかけます。
- (2) 今年度のオオタバコガに関する発生予察注意報の発表は、6月13日に発表した令和6年度発生予察注意報第2号に続き、2本目となります。



写真1 オオタバコガのトラップ

- ・ 三角屋根で、中に雌成虫のフェロモン源をつけた粘着板（写真2）が設置されています。
- ・ 高さは地上高1～1.5m
- ・ この写真では 両側（黄色矢印）の三角屋根の空間から、オオタバコガの雄成虫が、雌成虫のフェロモンに誘引され屋根の中に飛来し、設置されている粘着板（写真2）に張り付いて、誘殺されます。

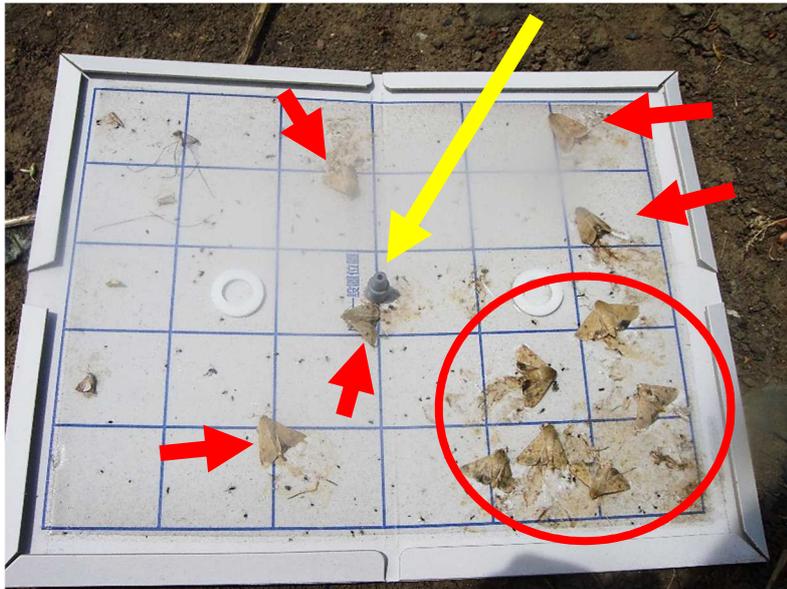


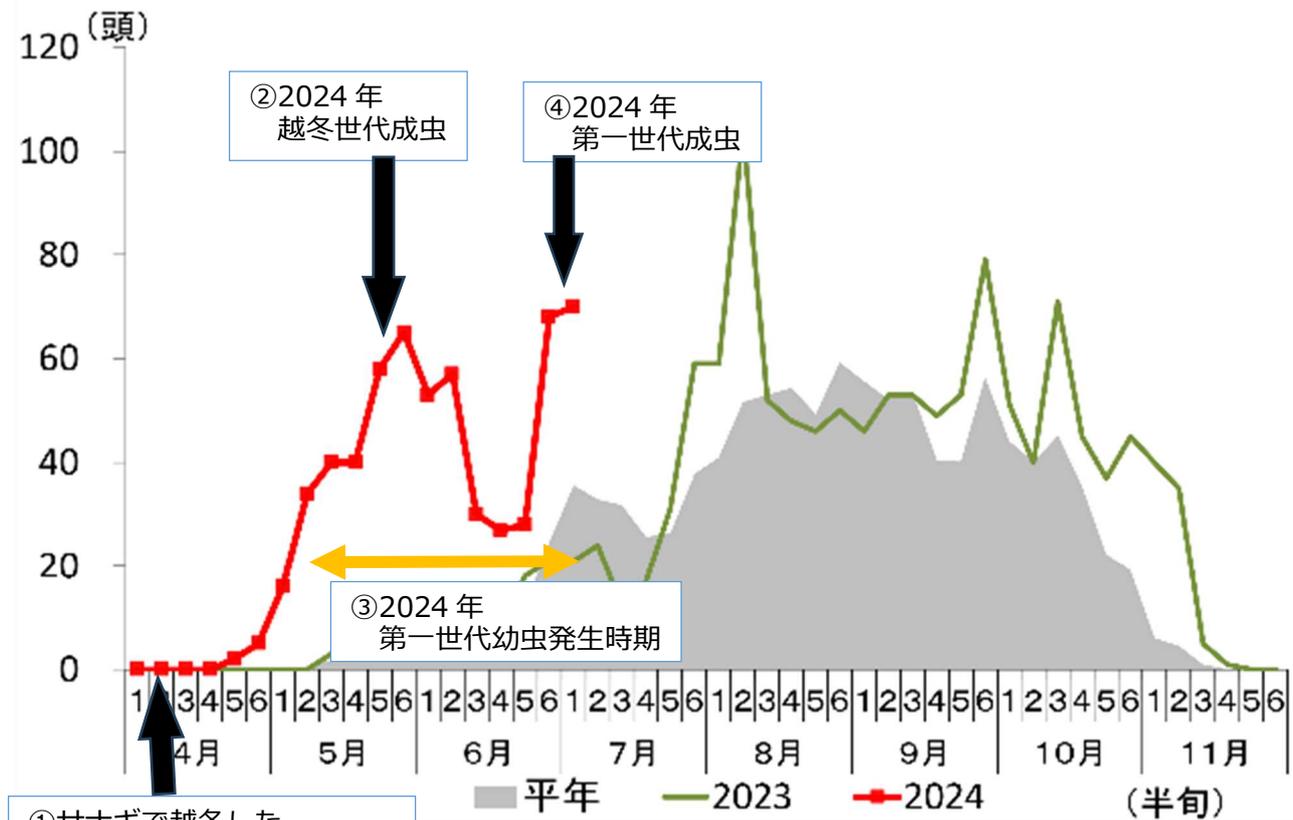
写真2 粘着板と粘着板に捕まったオオタバコガ雄成虫

【黄色の矢印】

- ・ オオタバコガ雌成虫の性フェロモンを含むゴムキャップ

【赤色の矢印、赤の円囲み】

- ・ 粘着板に張り付いて誘殺されたオオタバコガの雄成虫
- ・ オオタバコガ雌成虫の性フェロモンに誘引され、粘着板に張り付いています。



【用語説明】

- ・フェロモントラップ：粘着板の上にオオタバコガ雌性フェロモンをしみこませた製品を置き、雄のオオタバコガ成虫を誘い粘着板で捕獲する装置。
- ・誘殺：トラップに捕獲されること。フェロモンに誘われ、粘着板に捕獲されて死にます。
半旬：1カ月を5日毎に区切った期間。毎月1～5日が1半旬。おおよそ10日毎の期間である旬（上旬、中旬、下旬）の半分の期間

【オオタバコガの発消長について】 ⇒ 2024年の赤線のグラフを見ながら読んでください。

- ① 気温が上がり始めると サナギで越冬した個体が成虫に羽化し「越冬世代成虫」の誘殺が始まる。
- ② 「越冬世代成虫」の誘殺。「越冬世代成虫」が誘殺されている間（4月4半旬～6月2半旬）は産卵が続く。「越冬世代成虫」が多い時期の産卵数は多くなると考えられる。2024年は「越冬世代成虫」の誘殺数が平年に比べて多いことから、産卵数も多いと予測される。
- ③ 卵が孵化（ふか）し、「第一世代幼虫」が発生する。「第一世代幼虫」は羽化して「第一世代成虫」となり グラフが増加し始める。
- ④ 「第一世代成虫」の誘殺。「第一世代成虫」が誘殺されている間は産卵が続く。「第一世代成虫」の誘殺が多い時期の産卵数は多くなると考えられる。2024年は「第一世代成虫」の誘殺数が平年に比べて多いことから、産卵数も多いと予測される。

「第一世代成虫」の産卵数が多いことが予測されることから、その子世代の「第二世代幼虫」も多くなり、農作物への被害が増えると考えられる

⇒そのため オオタバコガの注意報を発表する

令和6年度 発生予察注意報 第3号

作物名 野菜・花き類
病害虫名 オオタバコガ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 栽培地域全域
- (2) 発生量 多い

2 注意報発表の根拠

- (1) 群馬県が県内に設置している6地点のフェロモントラップにおける成虫の誘殺数が平年に比べて多く推移しています（図1～6）。このことから成虫が産卵する卵の数も多く、すでに農作物に被害を与える幼虫が多く発生していると考えられます。
- (2) 露地ナス、雨よけトマト、レタス等で幼虫による食害が確認されており、露地ナスでの食害は平年に比べてやや多くなっています。
- (3) 向こう1か月の気象予報（気象庁7月11日発表）によると、平均気温は高い確率70%であり、オオタバコガの発生量が多くなる気象が予報されています。

※「誘殺数」：フェロモンによって引き寄せられ、粘着板に捕殺された数

3 防除対策

- (1) オオタバコガは、幼虫（写真1）が果実や花蕾、結球の内部に食入し（写真2）被害となります。食入すると農薬がかかりにくくなるため、農薬による防除適期は卵がふ化してから食入するまでの約1週間となります。ほ場を見回り、幼虫を発見したら適切に防除してください。
- (2) ナスやトマト等果菜類の被害果、レタスや花き類等の被害株は、内部に幼虫が生息している場合があるので、必ずほ場外へ持ち出して適切に処分してください。

4 防除上の留意点

- (1) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続散布を避けてください。
- (2) 農薬の散布にあたっては、必ず農薬のラベルに記載されている使用方法、注意事項を確認して適正に使用し、他の作物等への飛散に十分注意してください。



写真1 オオタバコガ幼虫



写真2 ナス果実に食入するオオタバコガ幼虫 (矢印)

フェロモントラップ調査の結果

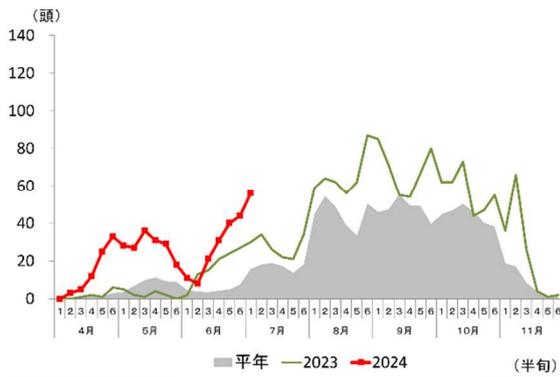


図1 前橋市江木町

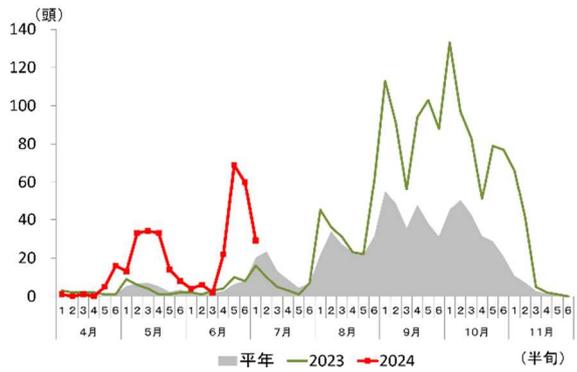


図2 伊勢崎市西小保方町

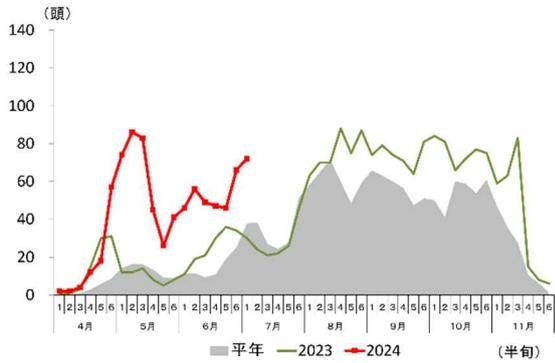


図3 藤岡市本郷

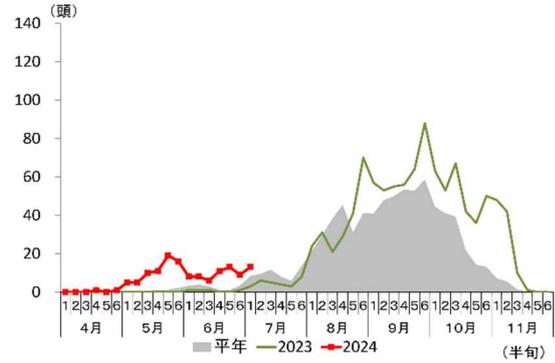


図4 東吾妻町植栗

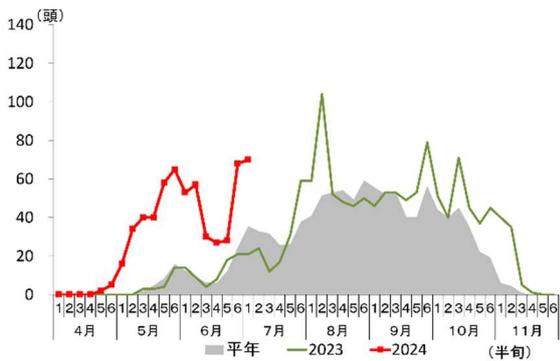


図5 昭和村系井

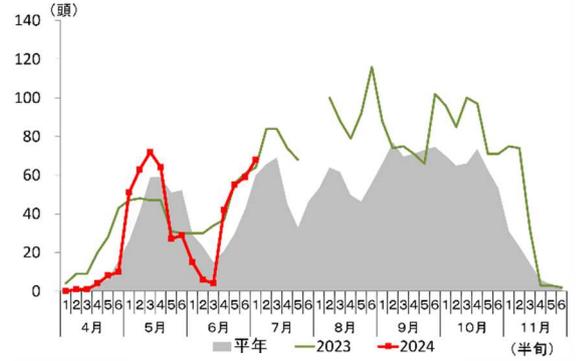


図6 太田市前小屋町